オーディオ資料室収載

インフラノイズ製品の導入経過

１．始めに

インフラノイズから新たに LAN アキュライザーが発売されましたので、早速導入し、試聴経過を報告している最中です。この機会にこれまでのインフラノイズ製品の導入の足取りを辿ってみたいと思って整理しました。なお、製品群は開発の時系列的に分類して記載していますが、前後することもあります。

２．ムジカライザーML-6

インフラノイズの製品の最初の導入は本製品です。2002 年のあるオーディオフェアーで遭遇し、当時 AXIOM80 の暴れに手を焼いていましたので、即購入を決めました。

この間の経緯は、オーディオ仲間が詳細なレポートをネットに挙げていただき、それを引用して Letters to the Editor のページに転載しています。

生まれ変わった AXIOM80！M 氏宅にて

その後 JBL4350A にも追加して現在に至っています。

スピーカーアキュライザーの導入に従い、余ってきたムジカライザーを A 氏にお譲りし、現時点でも皆様方に評価していただきました。この経過は試聴会・訪問記のページに掲載しています。

A 氏邸訪問記(2023.3.22)

４．マグナライザーとアリエナイザー

インシュレーターとしては、マグナライザーと PC 専用インシュレーター PSI-1000 および、その発展タイプの PSI-2000 を使用しています。この PC 専用インシュレーターは、通称アリエナイザーと呼称されています。

マグナライザーは、ホームページを始める以前の導入でしたので、報告はありませんが、アリエナイザーはオーディオ実験室のその他のアクセサリーのページに下記の報告があります。ともに PC 以外にも種々の応用が試されており、アリエナイザーは PC 以外にも広く応用しています。

PC 専用インシュレーターPSI-1000 の導入シリーズ

PC 専用インシュレーターPSI-1000 の活用シリーズ

PC 専用インシュレーターPSI-2000 の導入シリーズ

５．クロック機器

インフラノイズでは、早くからディジタル機器におけるクロックの精度の重要性を指摘し、各種のクロック関連機器を開発してきました。

クロックジェネレーターは、ABS-9999、ABS-7777、GPS-777 と使ってきましたが、ABS-9999 は売りに出して ABS-7777 と交換し、GPS-777 とともに使用中です。これらについては、日本標準時の電波時計や GPS のクロックを取り込むという発想には驚かされました。ABS-9999 と ABS-7777 は、HP 作成以前の導入でしたので報告がありませんが、GPS-777 については。オーディオ実験室のクロック関連機器のページで報告しています。

GPS-777 クロック入力試聴報告シリーズ

外部クロック入力実験シリーズ

GPS-777 は、販売店で ESOTERIC の高価な Rb クロック機器と聴き比べし、GPS-777 の優位性が証明されました。ABS-7777 は、城下工業のクオーツのクロック機器 SWD-CL10 を借用して聴き比べしましたが、ABS-7777 の優秀さが確認できました。

SWD-CL10 試聴記シリーズ

さらにクロックレシーバーの CRV-555 と CCV-5、およびクロックディストリビューターの CCD-6 も使用しており、CRV-555 は HP 作成以前で報告はありませんが、その他はオーディオ実験室のクロック関連機器のページで報告しています。

CCV-5 クロックレシーバー試聴報告シリーズ

CCV-5 クロックレシーバーの活用シリーズ

CCD-6 試聴記

GPS-777 は、CCD-6 を経由し、あるいは直接に、CRV-555 と CCV-5 の他、外部クロック入力のある EMT981、Marantz SA11-S2、USB-201 にクロックを供給しています。

ABS-7777 は、TASCAM DA-3000 にクロックを供給し、さらに SDIF 伝送の同期をとるため、DA-3000 経由で Brooklyn DAC-+にも供給しています。

GPS-777 や ABS-7777 は、唯一無二の製品なので壊れないことを願うばかりです。

まお、この機会に GPS クロックの勉強をして、オーディオ論壇のページに下記を 3 回に分けて掲載しています。

GPS-777 による音質向上の一考察 Part Ⅰ

GPS-777 による音質向上の一考察 PartⅡ

GPS-777 による音質向上の一考察 PartⅢ

また、オーディオ資料室に補足的な解説を下記に掲載しています。

GPS-777 によるディジタル再生
GPS-777 に関するいくつかの実験
GPS における相対性原理の補正
Allan 分散

これらにより、GPS そのものや相対性原理の補正やアラン分散など時間軸の変動を数式で評価することが勉強になりました。

6．ケーブル

オーディオ用 USB ケーブルの開発は、インフラノイズが端緒だったと記憶しています。その経過は、オーディオ実験室のケーブルのページに報告しています。さらにこれらは USB リベラメンテに発展しました。

オーディオ用 USB ケーブル USB-W4 試聴記
USB リベラメンテ導入記シリーズ

ディジタルケーブルについては DCG ケーブルが開発され、その経過は、オーディオ実験室のケーブルのページに報告しています。

音律の再生能力による再生装置の評価実験シリーズ

純正律が純正律として聴こえることが必要だという主張が、平均律と異なる古典調律の古楽を聴くのでおおいに参考になり、このケーブルに触発されてオーディオ論壇のページに考察結果をまとめています。

音律等の再生能力による再生装置の評価方法についての実験と考察

さらに一連のリベラメンテケーブルが開発され、オーディオ実験室のケーブルのページに報告しています。

リベラメンテケーブルを聴くシリーズ
ディジタルリベラメンテケーブ試聴報告シリーズ
クロックリベラメンテ試聴報告シリーズ
スピーカーリベラメンテの試聴シリーズ
LAN リベラメンテの導入シリーズ

リベラメンテケーブルに先行するインフラノイズのケーブルについては 1 組だけ上新電機の売れ残りを安く購入して今も使用しています。
リベラメンテケーブルの導入により、それまでの他社のケーブルは、メインシステムからすべて置き換えられてしまいました。

7．DAC と USB 機器

インフラノイズの DAC は DAC-1 があり、現在も使用中です。HP 作成以前の製品ですので報告はありません。
USB-101 にも DAC 機能が内蔵されており、オーディオ実験室の DD コンバ

ーターのページで報告しています。

USB-101 試聴記シリーズ

USB-101 その後シリーズ

USB-101 の後継機の USB-201 は、オーディオ実験室の DD コンバーターのページで報告しています。開発年代的に DSD や MQA 対応がなされておらず、現時点では他社の USB-DAC に置き換わっています。

USB-201 試聴報告シリーズ

USB-5 というオーディオ用 USB メモリーもありましたが、現在は容量が不足するので使用していません。オーディオ実験室の PC オーディオのページで報告しています。発売当初、ストレージなんかで音が変わるとは何事かと随分ネット上でたたかれましたが、現在では常識になっています。

USB-5 試聴記シリーズ

上記の USB-201 には光アイソレーションが組み込まれていましたが、ディジタルノイズなどをカットする RMS-1000 というものもあり、アナログからディジタルに変換し、そこで光アイソレーションをおこない、ふたたびアナログに戻すものでした。この RMS-1000 は HP 作成以前のもので報告の掲載はありません。

８．電源機器・フィルタライザー

電源関係では、タップリベラメンテとフィルタライザーとパワーリベラメンテを愛用しています。タップリベラメンテとフィルタライザーは、オーディオ実験室のその他のアクセサリーのページで紹介しています。

タップリベラメンテとフィルタライザーの導入シリーズ

タップリベラメンテとフィルタライザーの活用シリーズ

パワーリベラメンテはオーディオ実験室のケーブルのページで紹介しています。

パワーリベラメンテ導入記シリーズ

パワーリベラメンテの展開シリーズ

アナログ機器用のタップリベラメンテに Magnetic Wave Guide を挿すと効果が増強され、ディジタル機器のタップリベラメンテには、iFi の i Purifier AC を挿して一層のノイズ低減効果が得られました。

９．アキュライザーファミリー

ディジタルアキュライザー以来、アキュライザーファミリーは全製品を使用しています。

これらは、信号系に挿入して整音するタイプと微振動を制御して整音するタ

イプがあり、これらはオーディオ実験室のその他のアクセサリーのページで報告しています。

信号系に挿入して整音

ディジタルアキュライザーDACU-500 の導入シリーズ
USB アキュライザーUACU-700 の導入シリーズ
アナログアキュライザーの導入シリーズ
アナログアキュライザーの活用シリーズ
アナログアキュライザーの展開シリーズ
バランスアナログアキュライザーの導入シリーズ
バランスアナログアキュライザーの活用シリーズ
スピーカーアキュライザーの導入シリーズ
スピーカーアキュライザーの活用シリーズ

微振動を制御して整音

ヴォリュームアキュライザーの導入シリーズ
ヴォリュームアキュライザーの活用シリーズ
ターンテーブルアキュライザーの導入シリーズ
ターンテーブルアキュライザーの活用シリーズ

これらアキュライザーファミリーは他に類をみない製品であり、その効果はどれも大きかったのですが、特に顕著だったのは、バランスアナログアキュライザーとヴォリュームアキュライザーとスピーカーアキュライザーです。なお、ターンテーブルアキュライザーはターンテーブルシートとの相性がありました。

今回導入した LAN アキュライザーは、インフラノイズの HP に LAN の問題点や開発方針が紹介されています。

現在、配信が主要な音源となっていますので、配信音源の再生においてその効果を確認し、LAN アキュライザーの導入シリーズで報告しています。

LAN アキュライザーの導入シリーズ

なお、LAN アキュライザーは追加導入もしましたので、年末恒例のメサイアなどのライブ配信で効果を確認していきます。

10. 景品とアウトレット品

感想文の景品として入手した、アリエナイザーミニ、ケーブルチューナー、ダンパーフレーク、USB ダンパーや、その他、オーディオ用防振 BOX や録音用ラインフィルターやアクションパッドやムジカライザー用コイルなどのアウトレット品は今も使用中です。さらに、製品や景品を模した模造品を製作することも行ってきました。これらの詳細は省略しますが、オーディオ実

験室のその他のアクセサリーのページで紹介しています。

11. まとめ

以上のように整理した結果からインフラノイズの製品に関する全般的な印象を述べてみます。

まず、インフラノイズの製品開発の発想が極めて独創的であり、類似製品が見つからないか、類似製品の先鞭をつけるような製品が多いことです。

それらの製品の特長は、いわゆる音マニアを満足させるものではなく、派手さはないものの音楽の表現力に富んでいます。それ故、音質を無理やり変えてしまう個性の強いものではなく、他社製品の優秀な製品とも調和します。

音質については一貫性があり、また経験の積み重ねにより同種の後続製品のグレードが着実に上がってきています。

昨今高額なオーディオ製品が多い中、コストパーフォーマンスに優れ、投資金額以上の成果を出してくれています。さらに、一時の話題性になるだけのものではなく、長く使い続けても陳腐化しない持続性があります。

反面、音質面での仕上げには高度な調整を要するようで、大量生産には向いておらず、供給が追い付かないきらいがあります。

また、情報発信の点で、ひろくオーディオジャーナリズム等で取り上げられることは少なく、同社のブログやプレスリリース資料の文章も難解なところがあります。

というわけで、とっつきにくい製品が多いのですが、一度使うと納得して同好の士が使い続けるような製品がほとんどです。

そのような特徴から、今回整理した内容となっているものと考えられます。

以上